活動先名：　地域福祉サポートちた

テーマ：　市民性をはぐくむ必要性

1.　活動先紹介

地域福祉サポートちたは、誰もが望んでいる、地域で自分らしく生き、心豊かに、幸せに暮らしていける、そんな地域づくりを目指している活動団体である。そのような地域づくりに向けて、他の NPO 団体・行政・大学・市民・企業などと情報交換をし、ネットワークをつなぐことで、今の社会、何が問題で何が必要なのかを考え、市民のやりたいことを応援し、交流・学びの場を提供するなどの事業を行っている。サポートちたが基となり、NPO 同士のネットワークをつくることで、社会への働きかけが強くなる。そして、サポートちた・市民・知多半島の各 NPO が協力し合い、より住みやすい地域に変え、地域全体を元気づけている。

2.　当初の活動目的、目標

地域福祉サポートちたの活動内容、周囲とのつながり、関係を理解する

・サポートちたが 10 周年を迎えたということで、どのように発展してきたのかを知る
・サポートちたの代表である松下先生の原点、「ゆいの会」で活動させてもらい、実際の福祉の現場を見る
・市民と一緒に事業に参加し、事業を体験する

3.　私達の活動内容

◆　1 日目：サポートちた 10 周年のイベントである半田の愛フェスに参加

「降りていく生き方」という地域福祉に関する映画を鑑賞した。サポートちたのブースで、スタンプラリーのスタンプを押す仕事や、10 周年記念誌を配布する仕事を行った。

◆　2 日目：ゆいの会で活動

午前中は、ゆいの会たすけあいサービスの利用者さんのご自宅に、ヘルパーさんと一緒に訪問させていただき、利用者さんとお話をしたり、部屋の掃除をしたりなどの活動を行った。午後は、デイサービスのゆいサロンの利用者さんと一緒に、昼食やおやつを食べ、絵はがきをつくった。

◆　3 日目 : サポートちたのネットワークを模造紙にまとめる／大人の学校のボランティアセミナーに参加

愛・地球博記念公園で行われるイベントのサポートちたのブースで、展示してもらう模造紙をつくるために、子どもからお年寄りまで、サポートちたについて知ってもらえるようにわかりやすさを心がけながら、サポートちたのネットワークについて話し合い、少しずつ形にしていった。

ボランティアセミナーでは、大人の学校に参加されている団塊の世代の方たちと一緒に、病院でボランティアをされている方の DVD を見たり、ボランティア実践者のお話を聴いたりした。

◆　4 日目 : ボランティアセンターのミニ講座に参加／だいこんの花を訪問

ミニ講座では、手話を体験したり、聞こえない人の生活の話を聴いた。

だいこんの花では、利用者さんの楽しみとなっている、様々な活動について教えていただき、利用者さんの笑顔がたくさん写っている写真を見せていただいた。また、民家を訪れ、その民家を改修し、今後だいこんの花が新しい活動として、利用者さんがのんびりと過ごすことのできる場所を提供できるようにしたいとの思いや改修の計画を聴かせていただいた。

◆　5 日目 : NPO 現場見学バスツアーに参加

県の職員さんやインターシップできている学生と共に、ゆいの会、むそう、みんなの家ほっと、エンドゴールの見学をした。

◆　6 日目 : すっきりわかる NPO 講座に参加

NPO の作り方について、NPO 法人新青樹の方からお話を聴いた。NPO を立ち上げようと思っている方や、NPO を立ち上げたばかりでこれから活動を広げていこうと考え、講座に参加されている方などの話も聴くことができた。

4.　活動における、疑問、問題点

実際に利用者さんと関わることがないため、自分たちで企画をして、活動を行うことが難しい。サポートちたが行う様々な事業を理解したうえで、企画が出来れば良いが、理解する間の時間がかかり、6 日間という限られた時間の中では難しいと考える。また、自分が主体となって活動を行えていたのか、という点について疑問を感じる。活動目標の達成のために、様々な事業に参加していくという形で、周囲との関係や繋がりを一つ一つ理解を深めて行こうと考え、活動を行い、終了後は目標を達成できたと感じることができた。しかし、参加するという活動の仕方だったことで、受け身になりがちであったとも思う。こ

のことから、サービスラーニングとして、自分が主体となって活動できていたかどうかは、もう一度考え、ふりかえってみるべき点だと考える。

5.　サービスラーニングを通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

様々なイベントや講座に参加させていただいて、どのような事業なのか、また、どのような方々が利用されているのかが、実際に自分も参加し、目で見ることで、理解することができた。何かをはじめたい人、やりたくても場所がない人など、サポートちたは、市民のやりたいことを応援したり、交流や学びの場を提供したりと、活動のきっかけづくりをしているとわかった。様々な事業、愛フェスに参加し、ゆいの会を訪問したことで、知多半島の NPO の規模の大きさに感動し、NPO 全体の連携の強さを感じた。活動をするまでは、中間支援とはサポートちたと各会員 NPO の間が主だと思っていたが、活動していく中で、市民とのつながりが多くあるということがわかった。事業を見ても、市民のための活動が多く、本当に幅広い年代の人たちが、サポートちたを利用していると思った。また、色々なことを経験したり、学んだり、話をする機会を何度も重ねたりすることが大切だと活動の中で学び、経験することの大切さも感じた。色々な経験をすることは、全て自分のためになっていくというのを強く思った。

6.　グループ研究の成果を踏まえて今後の学びにどう活かすかの抱負

活動は自分一人で実施するのではないから、計画から振り返りまでをグループで協力をして行うことが大切である。活動を通して、みんな一人一人が感じたことや考えたことは違うから、自分でまとめるだけでなく、それをお互いに意見交換することで、より学びが深まった。そして、それを発表し伝えることで、自分たちだけでなく、他の人へも利益になる。活動目標だった、「サポートちたのつながりを理解すること」に対して、自分たちが学んだことをどれだけわかりやすく伝えられるのかが必要となってくる。

7.　活動の提案

自分自身が大学 2 年生で NPO について勉強するまで、知識がなく、全く知らない状態だった。知多半島には多くの NPO があるので、もっとたくさんの人たちに NPO についてしってもらいたい。活動をしていて、年配の方は、よく参加をされていると感じた。それに比べて、若い世代の子どもたちはどうなんだろうと感じた。特に、小学生や中学生の頃から、福祉について、また NPO について、もっと知ってもらいたいし、興味を持ってもらいたいと思った。 6 日間の活動終了時点になりましたが NPO、学校、地域の人々が協力をして、子どもたちに福祉や NPO のことを伝えていけるような機会があるといいと考え夏休み

等に「親子のＮＰＯ現場ツアー」が出来るといいと企画提案した。

8.　地域活動から学んだ地域福祉、私達、私の想い、考え方

活動を通して、高齢者、しょうがい者、子どもを含めた全ての人々が、地域の中で安心して豊かに生活できることの大切さを学んだ。そのような地域をつくっていくために、自分がやりたいと思ったことがある人、やらなければならないことに気付いた人が声に出し、自分から動き始めようと、勇気を出して一歩踏み出すことが必要だと思った。声に出すことで、同じ思いを持った仲間に出会えたり、一歩踏み出して地域に出ることで、色々な人と関わりを持つことができたりなど、様々なネットワークを築くことができると思う。周りの人々の協力や理解が得られることによって大きな力となり、一人ではできないと思って諦めていたことにも、いろんな可能性が見えてくると思う。地域の多くの人々が、自分の地域について考え、動き出せば、地域で暮らしていくことに困難を抱えている人々も、様々な選択肢の中で、自分のニーズに合ったサービスをうけ、幸せに暮らしていけるようになると考える。